

東京学芸大学 先端教育人材育成推進機構外国人児童生徒教育推進ユニット

研修「多様性が活かせることばの教育2025」

研修 **A** 多様な言語的文化的背景をもつ 高校生のための学習環境づくり

2025年6月8日
10:00ー12:30
オンライン開催

第**1**回 「ことばの学習」活動 をデザインする ー学習環境づくりの視点からー

齋藤ひろみ

(東京学芸大学 本ユニットユニット長)

本資料の利用について

教育・研修を目的とした利用に限ります。資料としてご利用を希望する場合は、コンテンツの出典として「利用する資料等の作成者・執筆者」「利用する資料等が作成・公開された事業名」「コンテンツが示されているウェブサイトのURL」を明記して利用してください。部分的な切り取りや加工をして利用することは禁じます。

東京学芸大学 先端教育人材育成推進機構

外国人児童生徒教育
推進ユニット



本研修用動画の内容は、本学が受託した文部科学省「高等学校における日本語指導体制整備事業」（令和4年・2022年度）の二つの成果物に基づいています。詳細は、直接アクセスしてご覧ください。

『高等学校における外国人生徒等の受入れの手引』

高等学校における外国人生徒等の受入れの手続き、日本語指導の仕組み、支援体制作りに関する考え方や事例、そして関連する情報で構成しています。

https://kodomonihongo.u-gakugei.ac.jp/.assets/M22_koko_nihongo_tebiki.pdf

『高等学校の日本語指導・学習支援のためのガイドライン』

日本語指導、教科指導・教科学習支援、キャリア教育、多文化共生教育に関し、具体的な内容構成や実施方法を提案します。本事業で実施した調査を通して収集した具体例や実践・取り組み事例、また、関係者の声なども採録しています。

https://kodomonihongo.u-gakugei.ac.jp/.assets/M22_koko_nihongo_guideline.pdf

研修 A 全体の趣旨

「特別の教育課程」による日本語指導の制度化が施行されて3年目を迎えました。外国人生徒等が、共生社会の一員として自己を実現するためにも、この制度を利用して日本語指導の充実を図りつつ、その学習を教科学習、キャリア形成、社会的活動への参加等に関連付けて、自己を開拓するための力を育むことが期待されます。そのために今年度の研修では、学習環境デザインの考え方で、多様性を活かして生徒が主体的に参加し新たな価値を創造することばの学習の場を構想します。環境の要素の中から、第1回目には活動を、第2回目にリソース（人工物）を、第3回目にコミュニティ（共同体）を取り上げて検討します。

1 学習環境

山内祐平（2020）『学習環境のイノベーション』ミネルヴァ書房

社会の変化（不安定・不確実・複雑性・曖昧性）に学習目標は変化

高度な読み書き・計算・教科の知識の習得

⇒コンピテンシー（〇〇するための力）、非認知能力を重視

「自律・協調・問題解決」を基盤とした学習へ

環境との相互作用を通じて能動的に学習（知識形成）

物理的学習環境

A 空間

学校や教育施設の教室、学習のためのスペース（机・椅子・書架などの配置も）

B 人工物

（教材・教具）
筆記具・実験装置等の道具、ネット上のコンテンツ・システム、視覚表現形態等

社会的学習環境

C 活動

学習者にとって意味をもつ行為のまとまり、活動は連鎖的につながりシステム化を構成

D 共同体

（コミュニティ）
目標を共有する人々のつながり。主体的参加により構成された集団。アイデンティティ確立の過程で学習が生起

2 研修A 1～3回のテーマ

外国人児童生徒等が、その多様性を活かして主体的に参加し、新たな価値を創造する学習として、学習環境デザインの考え方で、活動・リソース（人工物）・コミュニティ（共同体）について、具体的な事例や現場の取り組みをもとに考えます。こうしてデザインされた環境における学習を通じ、生徒たちが自身の潜在的な力に気づき、さらに能力を開拓し、自分の未来を切り開き社会参加することを期待する。

日 時	テーマ・講義	特別の教育課程実施校報告
6月8日(日) 午前	学習環境としての活動のデザインについて	東京都立青梅総合高等学校
7月6日(日) 午前	学習環境としてのリソース(人工物)のデザインについて	報告くださる高校を募ります
8月3日(日) 午前	学習環境としてのコミュニティ(共同体)のデザインについて	兵庫県立湊川高等学校

3 ねらいとする資質・能力

文部科学省 「外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修モデルプログラム開発事業」の「豆の木モデル」（日本語教育学会2019）にもとづき、下表の資質・能力の向上を目指して、各回のテーマ及び内容を設定し、目標を具体化して、研修を実施する。

第1回	捉える力	エ 認知面の力と教科などの学力を年齢的な発達や学習経験を考慮して捉えることができる。 ク 子どもがどのような自己像を描き、どのように社会参加し自己実現ができるかを、社会の変化とともに展望することができる。
	育む力	セ 学校内外の生活・学習に結び付けて、日本語や教科の指導・支援、内容と日本語を統合した指導・支援をすることができる。
	変える力	ヒ 子どもが自身の多様性を支援にして活躍できる教育を実施し、多文化共生を促すことができる。
第2回	捉える力	ウ 子どもの言葉の力を、日本語と母語の両言語を視野に入れ、言語能力の多面性に留意して測定したり評価したりすることができる。 ク 子どもがどのような自己像を描き、どのように社会参加し自己実現ができるかを、社会の変化とともに展望することができる。
	育む力	ス 子どもの日本語の力を考慮して教材等を選んだり作成したりしてリソースを準備し、学習参加を促すことができる。
	変える力	ヒ 子どもが自身の多様性を支援にして活躍できる教育を実施し、多文化共生を促すことができる。
第3回	捉える力	キ 子どもの暮らしを地域の多文化化や外国人住民支援の状況に関連付けて把握することができる。 ク 子どもがどのような自己像を描き、どのように社会参加し自己実現ができるかを、社会の変化とともに展望することができる。
	育む力	サ 子どもの母語、母文化、アイデンティティを尊重し、学級・学校・地域における社会参加を促すことができる。
	変える力	ヒ 外国人児童生徒等が地域にもたらす影響を多様性として肯定的にとらえられるように、マジョリティである受け入れ側に働きかけることができる。

多様な言語的文化的背景
を持つ高校生のための

第1回

「ことばの学習」活動を
デザインする

—学習環境づくりの視点から—

1 学習をデザインする

ハーバード・サイモン（1999）『システムの科学』

現在の状況をより好ましいものに変えるべく行為の道筋を考案するものは、だれでもデザイン活動をしている。

よりよい日本語指導（ことばの教育実践）をしたい！
どんな空間で？どんな活動で？どんな教材で？どんな仲間と？

参考：デザイン思考 ティム・ブラウン（2019）『デザイン思考が正解を変える』

- ①共感する（Empathize） **現場**に深くコミットし、**ユーザーの経験を共感的に理解**する
- ②定義する（Define） **行動可能な形の課題**として**言語化**する
- ③アイデア展開する（Ideate） **チーム**で**アイデアの拡散と集約**を繰り返して
- ④プロトタイプを創る（Prototype）
- ⑤検証する（Test）

2 学習環境としての活動

参考① 創造的経験学習（ワークショップ）

導入：概要を知り、テーマに関して**経験した**ことを話し合う

知る活動：新しい情報を得て話し合い、過去の**経験を概念化**する

創る活動：状況を設定して**問題解決的実践**を行う **グループで協力**しながら制作活動を行う

まとめ：**気づいたこと、応用できることを考え共有**する
ワークショップを振り返り、評価を行う。（山内2020）



学習者がどのような行為ができるようになるか？そのためのタスク（課題）を設定する

参考② タスクベースの言語指導（Task Based Language Teaching）

プレタスク：手順・内容（トピック）の説明、**背景スキーマ（既有知識など）の喚起**
準備の仕方の助言、役立ちそうな語やフレーズの提示

タスク活動：＜要件＞**意味**のやりとりが求められる 解決すべき**問題・情報差異**がある
学習者がもつ言語的・非言語的リソースを用いて参加する
タスクの**内容に関連した成果**が設定され、達成を目指す

ポストタスク（フィードバック）：語彙・表現などの言語形式の確認

参考：松村昌紀編（2017）『タスク・ベースの英語指導』大修館

3 日本語指導・学習支援例 『ガイドライン』・研修会報告・プログラム例から

生徒の共感的理解、行動可能な課題の設定、生活経験・知識を活かす「創る」活動

事例Ⅰ 総合的な学習の時間「金融リテラシー」(2023年都立荻窪高等学校報告)

https://kodomonihongo.u-gakugei.ac.jp/.assets/M23_kenshuO4_ogikubo2.pdf

生徒：3・4年生 5名
N3～N1レベル

目標：

自立後の生活を想像し、
収入と支出のバランスを
取って家計管理をするこ
との重要性を理解する。

経費に関する日本語を
知り、一人暮らしの経費
について想像したことや
考えたことを話し合うこ
とができる。(日本語の
目標)

学習活動	主なやりとり	支援
1 人生の経済活動 について整理する。	T:人生の三大経費は何ですか。 T、自分で払っているものはあり ますか。親が払っているのは？	ワークシートを準備し、 経費に関する用語の 理解を促す(やさしく 言い換え・英語で)。
2 大学生の一人暮 らしの1か月の支出 を推測する。	T:日本の大学生は、1か月、 ●●費をどのくらい払ってい ると思いますか。	・推測させてから、調 査結果を示す。
3 自分なら支出を どうするか話し合 う(理想の家計簿)	T:この費用についてどう思いま すか。なぜですか。 T:あなたならどこを削りますか。	・仕送りについて考え させる。 ・母国での経済的自立 について話し合う。
4 まとめる。 ・経済的自立と家 計管理の要点 ・用語の振り返り	T:今日学んだことで、大事だと思 ったことは何ですか。それは なぜですか。	金融に関するリテラ シーは、人生を通して 学び続けることが重要 であることを伝える。

事例2 学校設定科目 日本語基礎講座「折れ線グラフから読み取ろう」

生徒：1年生7人

N3受験予定

日本語基礎講座の内容：
工業科として必要な数
学・物理等の専攻学科
の内容に関連付け、教科
（横断的）と日本語
の統合学習型の授業を
行う。

目標：グラフから情報を
集めてサーキットコース
の形を考え、理由を
日本語で説明しよう。

＜学習課題＞1周3km（平らな）のサーキットでレーシングカーを3週走らせました。下のグラフは2週目の速度がどのように変化したのかを表したものです。グラフのレーシングカーを走らせたのはどのサーキットコースですか。5つの図から1つ選びましょう。

学習活動	支援
1 学習課題をつかむ(各自チャレンジ)	・写真・動画によるイメージ化 ・語彙の読みの確認 ・母語でも表現可能とする。
2 3つのグループに分かれて異なるワークシートを利用して、折れ線グラフの傾向や特徴を読み取る	・ワークシートで視点を提示 速度変化グラフ （グラフの見方が示されている）
3 グループ編成を変更して2の活動で気づいたことを話し合い、課題に取り組む	サーキット図(記号の意味が記入) 問い(ルビ付き、やさしくリライト) ・生徒の対話を尊重
4 3で話し合った課題の解決を紹介する	・グラフを用いた説明を促す。
5 学習を振り返る	・日本語で→母語でも書く

事例3 学校設定科目 日本語B ユニット5 「受け身」2時間

(『高等学校における日本語プログラム』プログラム例2)

https://kodomonihongo.u-gakugei.ac.jp/.assets/2024_program_koko_saya.pdf

生徒：2年生5人
N4レベル

目標：

受け身文の形式と意味を理解し、能動文と受動文の構造の違いや受け身文の意味合いの違いを分析する。4コマ漫画の登場人物の心情を推測し、気持ちを表すために、受け身文を利用することの良さに気づき、積極的に表現しようとする。

学習活動	支援
1 受け身文の使用場面を理解する。	・学校での使用場면을例示する。
2 受け身文を作る。 ①動詞受身形の作り方を知り、変形練習を行う。 ②受け身文の構造を知り、能動文を受け身文にする。	・動詞の活用のタイプ別に学習 ・五十音表を準備 ・文づくりで利用する語彙を確認する。
3 4コマ漫画を5コマ漫画に改編する。 ・4コマの絵を並べ替え、受け身文を使って説明する。 ・3・4コマの間の場面(絵)を考える。 ・その場면을説明する。	・漫画を拡大し、クラスで話し合っ て活動できるようにする。 ・イラストを描いて場면을説明する。
4 まとめる。 5 学習を振り返る。	・目標を達成できたか自己評価する。

事例4 特別の教育課程「日本語IB」「質の高い教育をみんなに」6時間

(『高等学校における日本語プログラム』プログラム例4 愛知県立御津あおば高等学校)

<https://kodomonihongo.u-gakugei.ac.jp/.assets/jissirei5.pdf>

生徒：1年次 18人

日本語の力は多様

目標：

SDGsの「4 質の高い教育をみんなに」に関する語彙や概念を理解し、本校の教育を批判的に捉えた上で、改善点について、他者の意見を積極的に反映させて自分の意見をまとめ、発表することができる。

学習活動	支援
1 SDGsの第4の目標について知る。	・ユニセフの関連動画を準備 ・必要に応じて母語で支援
2 教育の問題について話し合う。 ・世界で ・日本で ・自分の学校で	・各国の教育環境に配慮しながら考えさせる。 ・プラス面とマイナス面で整理 ・関連する語彙・表現を板書
3 学校で質の高い教育を受けられるように改善点を考える。 ・話し合う。 ・自身で考えた改善点をまとめて発表の準備をする。 ・発表する。	・具体例を挙げ、立場別に考えるよう示唆する。 ・プレゼン用スライドのモデルを示す。 ・クラスメイトと相談しながら作成するよう促す。 ・評価シートを準備する。
4 学習を振り返る。	・今後も調べたいことなど、継続的学習を意識させる。

4 生徒の経験や力を活かす活動に

- ✓ 生徒の共感的理解を土台にした活動
生徒にとって意味のある行動可能な課題
- ✓ 探究し創造する活動
- ✓ 協働し、課題を遂行する活動

- ◎ **経験**や学習で培ってきた力、**多様性・個性**を活かせる
自己肯定感・自己有用感・自律性を得る：**学習への動機付け**に
- ◎ **学び方を学ぶ** ⇒ 自律的な学び手に
- ◎ 仲間と活動に参加し課題遂行のために日本語（母語等）を使う
他者・社会と関わり・問題を解決するためのことばの力を高める



- そのためにも
- ・ 学習環境の他の3要素との包括的な検討
 - ・ 教育者による教育のデザイン・支援が重要

参考：関連する政策動向

- 1 外国人児童生徒等の教育の充実に関する有識者会議(R7年)
主な検討課題 ・指導内容の深化・充実 ・指導体制の確保・充実
・日本語指導担当教師等の指導力の向上
・外国人児童生徒等の修学・進学・就職機会の確保
- 2 「外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLA」の改訂(R7年)
- 3 文部科学省委託事業「外国人生徒のキャリア支援等に関する調査研究」事業(三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社)(R7年)
高等学校等における外国人生徒に対するキャリア教育及びキャリア支援の実態を調査し、支援方策等の具体的な検討や研究協力校等による実践を行うことを目的として、本事業を実施する。
 - 高等学校における外国人生徒等に対するキャリア教育及びキャリア支援の実態をアンケート調査やヒアリング調査を通じて把握し、事例や研究協力校等による実践より、支援方策等を具体的に検討する。
 - 検討した支援方策等は、教育委員会や高等学校等向けのキャリア教育及びキャリア支援の取組ポイント集としてまとめる。

東京学芸大学
先端教育人材育成推進機構
外国人児童生徒教育ユニット

「高等学校における日本語プログラム 実施事例・プログラム案」 (2024年度版)

<https://kodomonihongo.u-gakugei.ac.jp/project02/content3.html>

第1部 高等学校向け「日本語」プログラムの開発について(1つのファイル)

第1章 高等学校の「日本語指導」の充実に向けてー「特別の教育課程」の制度化を受けて

第2章 高校生を対象とする日本語教育の内容構成

第2部 日本語プログラム例 (以下は、例毎に1ファイル)

<実施例1> 初期集中日本語プログラム 「春季・土曜日日本語講座」

ー 滞日1年未満・入学直後 (プログラムタイプ:A+B)

<実施例2> 総合的日本語プログラム

ー 滞日2年程度・2年次 (プログラムタイプ:B+C・D)

<実施例3> 技能中心の日本語プログラム

ー 滞日5年程度・2年次 (プログラムタイプ:C)

<実施例4> 市民性を育む日本語プログラム

ー 滞日1～3年程度:2年生 (プログラムタイプ:D+B)

<実施例5> SDGsを学ぶ日本語プロジェクト **準備中**

ー 滞日3年程度 2年次 (プログラムタイプ:D)

<案1> 日本語基礎とキャリア支援の横断プログラム

ー 滞日1年程度 1年次 (プログラムタイプ:B+D)

<案2> 「私」を伝える日本語プログラム **準備中**

ー 滞日1年～1年半程度 1年生 (プログラムタイプ:B+C)

<案3> 「高卒認定試験」受験に向けた日本語プログラム

東京学芸大学 先端教育人材育成推進機構

外国人児童生徒教育 推進ユニット



ありがとうございました。